

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075800310		
法人名	社会福祉法人 内野会		
事業所名	グループホーム鴨生の里		
所在地	福岡県嘉麻市鴨生693-1 (電話) 0948-42-2790		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 27 日	評価結果確定日	平成 26 年 1 月 29 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

共有スペースとなっているホールは吹き抜けになっており自然な光が差し込み開放感のある造りになっている。明るく家庭的な雰囲気の中で入居者一人ひとりの能力を活かし職員は出来ることは見守り、困難なことは一緒に行い、日常生活を共にしながら支援を行っている。法人内の介護老人保健施設が近隣にあり、地域の交流と共に外部の方々との交流ができるように支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokensaku.jp/>

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 12 月 20 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は開設10年目の木造平屋建てで、周辺は住宅地で医療機関やコンビニ、スーパーなどが徒歩圏内にある。「住みなれた地域とのよりよい、人とのよりよい・・・」という理念を職員全員で作成しており、利用者一人ひとりの能力を活かしながら、日々の個別ケアに取り組んでいる。共用空間は広くゆったりとしており、落ち着いて過ごせる家庭的な雰囲気がある。事業所は働きやすい職場を目指し、勤務しやすいシフト作りをしており離職者も少ない。職員の資格取得を推奨しており、全員有資格者である。職員間もチームワークがよく、職員は明るく、笑顔で利用者と接するように努めている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【 I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域との寄り添い、人と人との寄り添いを大切に生きがいとやすらぎのある生活を支援します」理念の下、その人らしく生活ができ楽しみや喜びがあり安心した生活が送れるよう職員は努めている。	事業所は地域密着型サービスの意義をふまえた独自の理念を作っている。ホーム長と職員は、日々の生活の中で利用者一人ひとり個性に応じた言葉かけを行っている。理念が反映されるように申し送り時やミーティングでその都度、話し合っている。理念は玄関に掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域内の歌謡コンサートへの参加したりボランティアとしてお手玉のレクリエーションにきて頂いている。又、地域の中学校の体験学習で利用者と交流を深めている。	事業所は中学校生の体験学習や近隣の幼稚園児のクリスマス会の慰問、お手玉遊びなどのボランティアの受け入れをしている。年1回家族交流会を開催し、家族全員参加の食事会を行っている。地域主催の行事、活動などは特に参加していない。	利用者や職員と一緒に地域行事や活動に参加できるように、地域住民の代表者や運営推進会議の委員にアドバイスや意見を求め、日常的に地域との交流を持てるようにしていただきたい。
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流、運営推進会議で利用者状況などを報告し認知症の方の理解につながるよう努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況、サービスの実際を報告し意見交換を行い、サービスの向上に生かしている。	2ヶ月毎の運営推進会議では、利用者や職員の状況、活動、行事、サービスの状況など報告している。委員から、地域の美容師にビューティヘルパーとして定期的に事業所で利用者の整髪をしては、との意見があり実践して利用者に好評である。委員の意見や要望などはサービスの向上に活かしている。	運営推進会議の委員構成員として地域住民の代表者に参加を依頼することが望まれます。事業所の「地域との寄り添い、人と人との心の寄り添い・・・」という理念を更に推進し、地域交流が図られることを期待します。
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に利用者状況、事業所の実情やケアサービスの取り組みなどについて報告している。会議に出席して頂き情報提供を頂いたり相談にのって頂いている。	日頃から、行政へ運営に対する利用者の状況やサービス内容について報告している。行政主催のグループホーム連絡協議会（13ヶ所）が発足され、毎月1回参加しており、情報の共有や研修等に取り組み協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が自由に入出入りできるように玄関は開放しており安全面に配慮しながら一人ひとりの行動を見守っている。市のGH連絡会に参加し他施設の身体拘束ゼロの取り組みについて伝達研修を行っている。	日中は玄関等の施錠はしていない。職員は利用者の外出傾向など把握しており、付き添いや見守りに努めている。身体拘束に関するマニュアルがあり、ホーム長が外部研修を受講し、他の職員へ伝達講習を行っている。テキスト・パンフレット・研修記録がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	市GH連絡会での虐待対応現任者研修に参加し職員へ伝達研修を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、ご家族へ概要の説明等の情報提供、手続きの支援を行えるようにしている。	成年後見制度については、外部研修を受けた職員が他の職員に内部研修を行ない、全職員が制度について学んでいる。制度に関して利用者家族には必要に応じて説明を行っている。	成年後見制度等の権利擁護に関しては、利用者家族も理解できるように契約時や来訪時、また事業所便りに載せるなどして、制度について繰り返し情報提供を行っていくことが望まれます。
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者のご家族に十分に説明を行い、不安や疑問が起こらないように注意している。解約時にも理解、納得して頂けるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望や意向は、日々の生活の中で聞き、ご家族からは面会時に意見要望など気軽に話をして頂けるように努めている。又、介護相談員の受け入れ、外部の相談窓口を紹介している。	利用者・家族は運営推進会議に参加しており、意見や思いを述べる機会がある。ホーム長・職員は利用者の日常的な会話や態度の中で利用者の意向の把握に努めている。また、訪問時や家族交流会などで家族の意見・要望などを聴いている。家族の結婚式参加の際の利用者の付き添いの要望に柔軟に対応するなど、要望・意見があれば「即対応」する姿勢で運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティングの場での意見や提案について職員間で検討し反映に努めている。	職員の意見や提案は職員間で検討させ、法人内の「シルバー会議」で検討して「即対応」の姿勢で取り組んでいる。職員からは食事の献立表作成、利用者の外出、外泊の回数を増やすなどの意見があり、職員の気付きやアイデアを運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況を把握し評価をしている。人員配置などの職場環境の整備や職員の資格取得について奨励している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員採用については、性別や年齢等に制限は設けていない。職員の経験を活かし豊かな生活を入居者へ提供できることから幅広い年齢層を採用している。</p>	<p>性別や年齢等で差別されることはなく、定年は60歳だが希望により延長の可能性あり、幅広い年齢層が勤務している。資格取得を推奨しており、職員全員が介護福祉士である。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>入居者に対する人権は、介護するにあたって十分に尊重している。内部研修にて職員への周知を図っている。</p>	<p>行政主催の「グループホーム協議連絡会」で高齢者虐待防止の人権教育があり、職員全員に内部研修を行っている。テキスト・研修記録・報告書がある。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>可能な限り外部研修に参加している。研修後は伝達研修を行っている。定期的な法人内の会議に参加し職員の質の向上を図っている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市GH連絡会にて他GHとの交流が図れている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談において本人、ご家族、関係者から心身の状況などを把握し、信頼関係の構築に努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にはご家族に面会しアセスメントを行い状況、要望等を把握し信頼関係の構築に努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族との面談時、必要な支援を見極め状況を見ながら対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事は見守り、困難なことは一緒に行い、日常生活を共にしながら関係を構築している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じてご家族に連絡を取り、ご家族と連絡を取り合い協力しながら関係を構築している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係が途切れぬように地域行事や施設行事、ご家族・知人の方との外出を行っている。	職員は、利用者の馴染みの人や場所を把握している。家族や友人と食事にでかけたり、入居前からの行きつけの美容室へ行っている。また、同一法人施設の行事に参加する時に施設の友人に会いに行ったり、家族へ年賀状を出す支援をするなど、関係が継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、楽しく関わり合いが持てる雰囲気作り、支え合えるよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族の方がボランティアとして2ヶ月に1回お手玉レクリエーションをして頂いている。退居後、他施設へ入所した場合は訪問したり、施設職員に近況をたずね、状況把握に努めている。		



項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の行動や会話の中から意向を汲み取り、意思表示の難しい方には行動や様子を観察し、本人の意向把握に努めている。	職員は、日々の関わりや何気ない話の中で利用者の思いを聞き、気持ちを推察して対応している。利用者の「帰りたい」思いを職員が代弁して、家族に面会の依頼をしている。帰宅願望に関わらず、利用者の行動や状態の変化について原因を考え、家族の意見を参考にしながら思いや意向の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、関係者などから生活歴、生活環境等の情報収集を行い把握に努めている。又、日常生活の中で本人に聞きながら対応している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル記録、個人記録、介護日誌から把握できるようにしている。申し送り、連絡ノートで情報の共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、職員の意見を反映し心身状態を踏まえた介護計画の作成に努めている。	介護計画は職員全員で毎月モニタリングし、3ヶ月毎に見直しを行っている。ケアマネジャーは、介護計画立案前にミーティングで職員の気づき要望、医師等の助言を聴取し検討を行っている。介護計画は家族に説明し同意を得ている。利用者に状態変化があれば状態に合った計画を随時策定し、個別具体的な介護計画となっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を職員が共有しケアの統一や介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズがあれば、柔軟な対応に努めている。身体、精神状態に変化があれば、計画を見直しケアに反映できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員やボランティアを積極的に受け入れている。法人内施設の行事などに参加する事で地域交流の支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(内科)の週1回の往診診療、歯科往診を受けている。利用者や家族の要望で以前からのかかりつけ医への通院も家族の協力を得ながら行っている。	かかりつけ医については本人・家族の意向を尊重しており、かかりつけ医の選択は自由である。受診や結果報告の方法は事前に家族と話し合っている。協力医療機関からの週1回の往診がある。定期・随時通院介助は家族の状況を判断して家族または職員が行っている。受診後の結果報告等は状態に変化がなければ家族の訪問時に伝えている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護職員を配置しており、入居者の健康管理や状態変化に応じ相談しながら支援を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院への情報提供、面会を通じての情報提供を行い、病院関係者との密な情報交換に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成し、重度化した場合や医療が必要になったきた時には、早い段階から家族と主治医と相談し最大限の対応が出来るよう取り組んでいる。	事業所には「重度化した場合の対応に係る指針」があり、利用開始時に本人・家族に説明を行っている。重度化・ターミナル期については、利用者家族の意向を確認しながら、医師、職員全員が話し合い合意を図って、医療機関や施設の入所を視野に入れて、支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成している。マニュアルを基本とし臨機応変かつ迅速に対応できるように日頃から意識づけを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災設備の設置業者、防災管理者の主導の下、避難訓練を定期的に行っている。また、近隣にある法人内の介護老人保健施設にも緊急時に応援を要請できる体制を整えている。	マニュアルを作成している。毎年2回、防火管理者が非常通報等設置事業者の点検に合わせて、消防署へ通報等の協力依頼を行い、事業所単独で実施している。避難訓練、避難経路の確認、水消火器を使用した訓練を行っている。非常用食料飲料水、排泄用品等の非常用備品を備えている。	地域・近隣住民へ参加の呼びかけを行い、事業所に関心を持ってもらい、お互いに助け合える関係を構築されることが望まれます。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを守る為に職員全員が守秘義務に努めている。個人記録は、眼のつきにくい所に保管している。	ホーム長は、ミーティング等で研修を行い、排せつ・入浴介助時は利用者のプライバシーや尊厳に配慮した支援を行うこと、利用者の写真撮影や掲載には事前に家族の同意確認を行うことなどを実践している。家族が面会等で他の利用者の身内について質問したり、外部からの問い合わせについてプライバシーが損なわれることがないように管理者が意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや要望を常日頃聞きだすように努め職員間で情報を共有している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調に配慮しその日、その時の気持ちを尊重し出来るだけ個別性のある支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にカットをしてもらっている。整容のさりげない支援と希望者には行きつけの理美容室への送迎の支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な入居者には職員と家事の手伝いをして頂いている。	献立は当日に職員が決めているため、利用者の「刺身が食べたい」等の要望にも応えている。利用者は、職員と一緒に食事の準備や盛り付け、片づけなどを行い、其々の役割を楽しまれている。職員は1名が同じ食事で、他は弁当持参であるが、一緒に食事しながら支援を行っている。誕生日のケーキやプレゼント等の食事が楽しみとなる様な行事も行われている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要時は老健の管理栄養士と相談しながら本人の状態に合わせた食事形態を工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に合わせ声掛けや見守り、介助を行っている。本人、家族の希望があれば歯科往診を利用されている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の様子や態度から排泄のサインを感じ取り、さりげなく声掛けをしたりトイレ誘導を行っている。入居者のできる事は見守り、自立につながるよう努めている。	排泄は、自室トイレで行うことを基本に、夜間の簡易トイレ使用は2名に留まっている。トイレへの定時誘導や利用者の行動・状態等を観て声をかけたり、誘導を行っている。排泄の失敗で体が汚れた場合は、シャワー浴で清潔にして利用者や周囲への配慮を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録にて排便状況の把握に努めている。バランスの良い食事と身体を動かす事で自然排便が出来るようにしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的な入浴曜日は決まっている。午前午後とに分け、本人の希望や体調に合うように時間は柔軟に対応している。	入浴は週3回、火・木・土曜の午前・午後準備され、入浴前に血圧測定するなど健康チェックが行われている。入浴を拒否される利用者に対しては、職員が交代してタイミングを図った声かけや誘導が行われている。入浴は、入浴剤を使用したりゆず風呂するなど、利用者が気持ち良くまた楽しく入浴できるように支援を行っている。	一人ひとりの生活習慣や希望にあわせていつでも入浴できるようにしていただきたい。
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は、レクリエーション活動等で日中の活動量を増やし、夜間の睡眠に繋げている。又、室温、衣類、布団の調整を行い気持ちよく休んでもらえるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居一人ひとりの内服薬について処方箋にて職員が薬の内容を確認できるようになっている。変更時は申し送りや連絡帳で確認徹底して、症状の経過観察を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態や希望に合わせて家事やレクリエーション、余暇活動を行っている。日々の生活の中で役割や気分転換などを図ることができ、楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域、法人内施設行事へ参加している。年間行事に出かけ楽しんでもらえるようにしている。	ドライブは年に6回以上実施され、普段あまり行けないような場所へ花見や紅葉狩りに出かけている。買い物や外食を1ヶ月に1回程度行っている。その他、法人の施設行事やボランティア慰問等に参加している。	利用者の散歩がほとんど行われていないので、近隣の住宅街や公園への「散歩だけ」、あるいは「レクリエーションや機能訓練として計画的に行う」など、事業所として取り組みやすい方法で実施されることを期待します。
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状況に合わせて、本人で管理できる方には少ない金額のお金を所持して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の近況を家族の面会時や電話で報告している。本人の希望があれば連絡して頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作成した書道、貼り絵や季節に応じた飾り付けを展示している。証明や音にも入居者が快適に過ごせるように配慮している。	事業所内は清潔に保たれ、音や採光は利用者が落ち着くように配慮されている。テレビは食事中は消されている。玄関には生花が活けてあり、季節感が感じられる。利用者が落ち着いた雰囲気でも過ごせる空間づくりをしている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールは吹き抜けになっていて開放感のある空間になっている。食堂やソファで思い思いに入居者同士が過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の使い慣れた家具や洋服、日用品など基本的に自由に持ち込んでもらっている。	居室はベッド、エアコン、トイレ、クローゼットが設置されており、利用者は、寝具類、筆筒、テレビ、仏壇や写真等、馴染みの身の回りの品々を持参して生活されている。衣類の入れ替えは主に家族が行い、日々の掃除や整理整頓は職員が行っている。居室は個性が感じられる居住空間になっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせてできる事は見守りや付き添いをしながら自由に行動できるように努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
			○	③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない